

競技注意事項

1. 規則

競技は2024年度（公財）日本陸上競技連盟競技規則及び本大会要項、申し合わせ事項による。
 なお、2024年度公益財団法人日本陸上競技連盟競技規則TR16.5の適用はしない。

2. 練習

- (1) 練習（アップ）本競技場と緑地帯アップエリアとし、安全面に十分注意して行うこと。練習（アップ）は選手のみとする。
- (2) 会場への投擲物持ち込みは禁止とし、練習は現地集合後に競技場に入場してから行う。
- (3) フィールド競技の練習は、競技開始前に審判の指示により競技場内で行う。
- (4) 競技場での練習は以下の通りとする。
 ○開門から第1競技開始15分前までで、競技の準備に支障がないエリアのみ可能とする。
 ○競技開始前の競技場での練習エリアは次のとおりとする。

・1日目

レーン	ホームストレート	バックストレート
1～2	周回練習（集団走は禁止）	周回練習（集団走は禁止）
3～6	短距離・スピード練習	短距離・スピード練習
7～8	ハードル練習	短距離・スピード練習
フィールド内芝生	使用禁止	

・2日目

レーン	ホームストレート	バックストレート
1～2	周回練習（集団走は禁止）	周回練習（集団走は禁止）
3～6	短距離・スピード練習	リレー練習
7～8	ハードル練習	短距離・スピード練習
フィールド内芝生	使用禁止	

○ホームストレートのみを使用する種目（100m・110mH・100mH）の競技中、バックストレートを開放する。この時の入退場は第2ゲート、第3ゲートを利用し、マージナル、練習会場係の誘導に従う。手荷物の取り間違え防止に努めること。

3. 競技場とスパイクの使用

- (1) 本競技場は全天候型である。
- (2) 使用できるスパイクのピンの長さは、走高跳12mm以下、その他は9mm以下とし、その数は11本以内とする。また、先端近くで、少なくとも長さの半分は4mm四方の定規に適合するものでなければならない。
- (3) シューズ（スパイク・ランニングシューズ含む）の靴底（ソール）全体の厚さは以下の通り。
 トラック種目
 800m未満の種目は20mm以内
 800m以上の種目は25mm以内
 フィールド種目
 走高跳：20mm以内（かかと含む）
 走幅跳：20mm以内（ただし前部が踵部より厚くならない）
 砲丸投、円盤投：20mm以内

4. 招集

- (1) 一次招集所は、スタンド下雨天走路内100mスタート側に設置する。二次招集は、トラック競技はスタート地点、フィールド競技はピットで行う。
- (2) 招集に遅れたものは棄権とみなし出場を許さない。競技を棄権する選手は棄権届をTICで受け取り、必要事項を記入の上競技1時間前までにTICへ提出すること。
- (3) 選手は、一次招集所でアスリートビブスの確認を受けること。また、800m・1500m・3000mの選手はシューズのチェックを受けなければならない。その他の種目については、競技場所を確認してもらうこと。
- (4) 一次招集開始及び完了時刻は下記の通りとし、競技者本人が行うこと。

種目	一次招集	二次招集
トラック種目	競技開始30分前～15分前	競技開始10分前
フィールド種目	競技開始60分前～45分前	競技開始10分前

- (5) 招集の確認は代理人を認めない。ただし、個人種目とリレーを同時に出場する場合は、その旨を二種目同時届に記入し、当該競技の招集開始時刻までに本人または代理人が招集所に提出する。用紙はTICに用意したもの、または「c-jac」のHPからダウンロードしたものを使用する。
- (6) トラック種目の競技者は、競技者係から腰ナンバーカード（レーンナンバーカード）を受け取り、右尻部につけること。（リレー競技は第4走者のみ）競技終了後、腰ナンバーカードを外し、ゴール付近のかごに入れること。
- (7) 混成競技について
 第1種目め、第3種目め（各日の最初の種目）の招集は、招集所で点呼を受ける。
 第2種目め、第4種目めの招集は混成競技者招集所で点呼を受けること。フィールド種目は競技開始30分前、トラック種目は15分前までに、混成招集所に集合すること。

5. 入退場およびコーチングエリアについて

- (1) 一次招集終了後、競技者の入退場は次のとおりとする。また、トラックを横断する時はマーシャルの指示・誘導に従うこと。
- ・ 100m・100mH・110mH・4×100mR（4走）
第4ゲートから入場し第1ゲートより退場する。
 - ・ 走幅跳
第4ゲートを利用し入退場する。
 - ・ 400m・800m
第1ゲートを利用し入退場する。
 - ・ 4×100mR（1走）
第1ゲートから入場し、第2ゲートから退場する。
 - ・ 1500m
第2ゲートから入場し、第1ゲートから退場する。
 - ・ 4×100mR（2走）・Aゾーン使用のフィールド競技
第2ゲートを利用し入退場する。4×100mR（2走）は競技後バックスタンドを通行する。
 - ・ 2000m・3000m
第3ゲートから入場し、第1ゲートより退場する。
 - ・ 4×100mR（3走）
第3ゲートから入場し、第4ゲートより退場する。
 - ・ 棒高跳・Bゾーン使用のフィールド競技
第3ゲートを利用し入退場する。
- (2) コーチングエリアを5カ所設置する。（メインスタンド2カ所・両サイドスタンド・1カ所ずつ・バックスタンド1カ所）コーチングエリアへの入場は、該当選手の試技時とし、指示後はすみやかに退場すること。コーチングエリア内の居座りは禁止とする

6. アスリートビブス

- (1) 千葉県小中学校体育連盟陸上競技専門部指定（2024年度発行）のJAAF登録されたアスリートビブスを使用する。
- (2) アスリートビブスは胸（腹ではない）と背にしわにならないように四隅をしっかりとつけ、切ったり曲げたりしてはならない。但し、跳躍種目は1枚を胸または背のどちらかにつけるだけでよい。

7. 走路順

トラック競技の予選の組、走路順、フィールド競技の試技順は主催者が抽選しプログラムに数字で示し、決勝の組・走路順は本部で抽選し、アナウンス及び速報サイトにて掲載する。

8. 棒高跳支柱移動申告について

各競技者は、競技開始15分前までに当該審判に自分の希望する支柱の位置を申告すること。もしも競技者がその位置を変更したいときは直ちに当該審判員に申告すること。

9. 3000mのスタート方法、給水について

3000mにおいてグループスタートを採用する場合のスタート方法は、各組のおよそ3分の2までが内側スタート、残りが外側スタートとする。また、気象条件によっては給水を行う。

10. オープンレーンについて

男女800m競走はブレイクラインの交差する直前の各レーンに角柱（もしくは代用縁石）を置く。
〔TR17.5.1〕

11. リレー競技について（リレーオーダー用紙はTICに準備）

- (1) リレー競技に出場するチームはリレーオーダー用紙に必要事項を記入し、一次招集完了時刻の60分前までにTICに提出のこと。ラウンド毎に提出すること。
- (2) リレー競技においてチームの出場者は、デザイン、配色が同一であれば選手によりユニフォームのタイプを選択することは問題ないとする。また、異なるメーカーのユニフォームを着用することも問題ないとする。〔TR5.1〕
- (3) リレーのマーカーの使用は1カ所とする。〔TR24.4〕

12. 走高跳・棒高跳のバーの上げ方

- (1) 走高跳・棒高跳のバーの上げ方は次の通りとする。

	練習	1	2	3	4	5	
共通 男子走高跳	1m40・60	1m45	1m50	1m55	1m60	1m65	以降3cmずつ
共通 女子走高跳	1m20・40	1m25	1m30	1m35	1m40	1m45	
共通 男子棒高跳	2m30・2m60・3m00	2m30	2m40	2m50	2m60	2m70	以降10cmずつ
共通 女子棒高跳	2m00・2m30・2m70	2m00	2m10	2m20	2m30	2m40	
男子 四種走高跳	1m20・40	1m25	1m28	1m31	1m34	1m37	以降3cmずつ
女子 四種走高跳	1m10・30	1m15	1m18	1m21	1m24	1m27	

- (2) 第1位に関わる競技者が同成績の場合は、ジャンプオフ（第1位決定戦）のためのバーの上げ下げの範囲は走高跳では2cm、棒高跳では5cmとする。〔TR26.9.4〕

13. 番組編成

100mから800mまで、また4×100mRの決勝の番組編成は、TR20.4を採用する。

14. 計時・競技の抽選

- (1) 競走競技はすべてのレースにおいて写真判定を採用する。
- (2) トラック競技においてプラス進出者を決める場合、その最下位で同タイム者が出たときは下記の方法で競技を行う。
 - ア、400m以下の競走競技、障害走、リレーにおいては、1000分の1秒以上の比較をし着差の判定をする。それでも判定できない場合は、競技者又は代理人によって抽選をして決定する。
 - イ、800m・1500mにおいては、アと同様に比較し、それでも判定できない場合は、次のラウンドに進める。(レーン内に2名の競技者が走る)

15. 不正スタートについて

不正スタートした競技者はすべて失格とする。ただし、混成競技においては、各レースでの不正スタートは1回のみとし、その後不正スタートした競技者は、全て失格とする。2024年度公益財団法人日本陸上競技連盟競技規則第TR16.5の適用はしない。

16. フィールド競技について

- (1) 走幅跳、砲丸投、円盤投は3回の試技とする。記録上位8名がトップ8へ進出し、さらに3回の試技を認める。
- (2) 録画再生機器や録画映像は、録画映像を提供するものの近くの位置であれば競技区域内に持ち込むことが認められる(TR6.4.5)。ただし、走幅跳については安全面を考慮し適用しない。

17. 用 器 具

- (1) 棒高跳のポール以外は競技場備え付けのものを使用する。
- (2) 棒高跳のポールは本部の公式計測員(技術総務)の検査を受けてから使用する。

18. 抗 議

発表された結果に対する抗議は、正式発表後(WEBの大会速報)全てのラウンドにおいて15分以内、ただし翌日に上位ラウンドがある競技は30分以内に監督がTICを通じて審判長に対して口頭で行い、控室で待機する。さらに、この裁定に不満の場合は預託金10,000円を添えて、担当総務員(ジュリー)に文書で申し出る。

19. 表 彰

表彰はメインスタンドコンコースで行う。8位入賞者は大会役員のアナウンスの結果やWEBの大会速報を見て陸上競技場1F表彰控え場所に集合すること。服装についてはチームウェア(Tシャツ、ジャージなど)を着用すること。

20. そ の 他

- (1) 記録の発表は、アナウンス及びWEBの大会速報のみとする。記録の掲示はしない。
- (2) 各自の持ち物については自分自身で管理し、盗難に注意する。
- (3) ゴミについては必ず持ち帰ること。競技場、駅、バス停などに絶対に捨てないこと。
- (4) 選手の控え場所としては、陸上競技場メインスタンド裏コンコース、芝生サイドスタンド、バックスタンド1F、競技場周辺を可とするが、避難経路や通路等をふさがないように設置する。周辺の木やフェンス等にロープを固定しない。
- (5) プログラムの記載事項の訂正、アスリートビブス忘れについては1日目、2日目とも一次招集開始1時間前までに、申込責任者がTICへ届け出ること。
- (6) 競技中に発生した事故などについては応急処置を主催者で行うが、以降の責任は負わない。また、体調が悪くなった選手は医務員の指示に従うこと。
- (7) レースを棄権する競技者は棄権届をTICで受け取り、必要事項を記入の上競技1時間前までにTICへ提出すること。